



つと想像力を養うべきである。第一の理由として、相手の気持ちや立場を  
考えることのできる力が身に付くことで、無駄な争いがなくなるからだ。イギリスとドイツの兵士たちも、きっと想像することができたのだ。彼らにも家族がいて、自分達と同じように日々の生活を送っていたことを。それをクリスマス朝、一瞬だけでも分かり合おうとしたのである。私たちも、相手を理解しようとするのが大切なのではないだろうか。相手の気持ち想像するためには、まず相手のことを知り、理解する必要があるだろう。文部科学省の教育の目的第一条には、「教育は人格の完成を目指し、平和的な国家及び社会の形成者として、真理と正義を愛し、個人の価値をたつとび、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた心身ともに健康な国民の育成を期して行わなければならない」とある。このように、平和な社会の実現のために教育があるのだ。私たちは英語を学ぶ。自分達と

は違う文化や考えを知るためだ。この地球上にはまだ知らない世界がある。それを少しでも知りたいたいから、コミュニケーションという手段を学ぶのだ。私たちは歴史を学ぶ。過去の人が犯した罪を、そして素晴らしい行いを知るためだ。歴史を学ぶことは、今を考え、第二の理由として、お互いを認めることにつながるからだ。敵という言葉には使い方が二つある。一つは敵対。お互いが敵同士であり、相手の足を引っ張ることだけに執着する。これが大きく複雑になったものが戦争だ。戦争は、「軍事力を用いて様々な政治目的を達成しようとする行為、または用いた結果生じる国家間の対立状態」と定義されている。もう一つは好敵手。つまりライバルのこと。ライバルはお互いが関係を高め合う存在だ。私にもそんな存在がいる。陸上競技部に所属している私は、大会でよく会う選手がいるのだ。その選手は私よりもタイムが良く悔しい思

い。私たちが自身である。世界を変えるのは核兵器でもミサイルでもな  
ではなく、賞賛の拍手を贈れる人になりたい  
う名言があるように、私は人に銃を向けるの  
勝者など存在しない。全員敗者である。」とい  
「戦争では、どちら側が勝利を宣言しようが  
き、本当の平和が訪れるのではないだろうか  
の形がある。それを想像することができた  
正義とは限らない。相手には相手なりの正義  
ことは良い。しかし、それが必ずしも相手の  
ないのである。確かに、自分の正義を信じる  
正しいというわけではない。どちらも正しく  
ここで戦争の話に戻ろう。戦争はどちらが  
より、好敵手として認めるべきだと思う。  
同じ敵にまつわる言葉なら、相手を敵対する  
えた。その子を素直に尊敬することもできた  
子に勝てるように毎日の練習も頑張ろうと思  
ていた感情が少し変化したように思う。その  
によく話すようになってから、これまで抱い  
いをなん度もしたことがある。しかし競技前